



【情報端末フォーラム2026】

# OCR専門委員会報告

2025年のOCR出荷実績と2028年までの出荷トレンド

2026年7月17日

**JEITA**

一般社団法人  
電子情報技術産業協会

OCR専門委員会 横田 和章

## OCR専門委員会の構成(2025年度)

JEITA

|      |        |                         |
|------|--------|-------------------------|
| 委員長  | 横田 和章  | 東芝デジタルソリューションズ(株)       |
| 副委員長 | 黒澤 裕久  | 日本電気(株)                 |
| 監事   | 常盤 治   | (株)日立情報通信エンジニアリング       |
| 委員   | 尾本 卓   | 沖電気工業(株)                |
| //   | 島崎 繁   | パナソニック ソリューションテクノロジー(株) |
| //   | 上條 裕義  | 富士フイルムビジネスイノベーション(株)    |
| 事務局  | 越坂部 義宏 | (一社) 電子情報技術産業協会         |

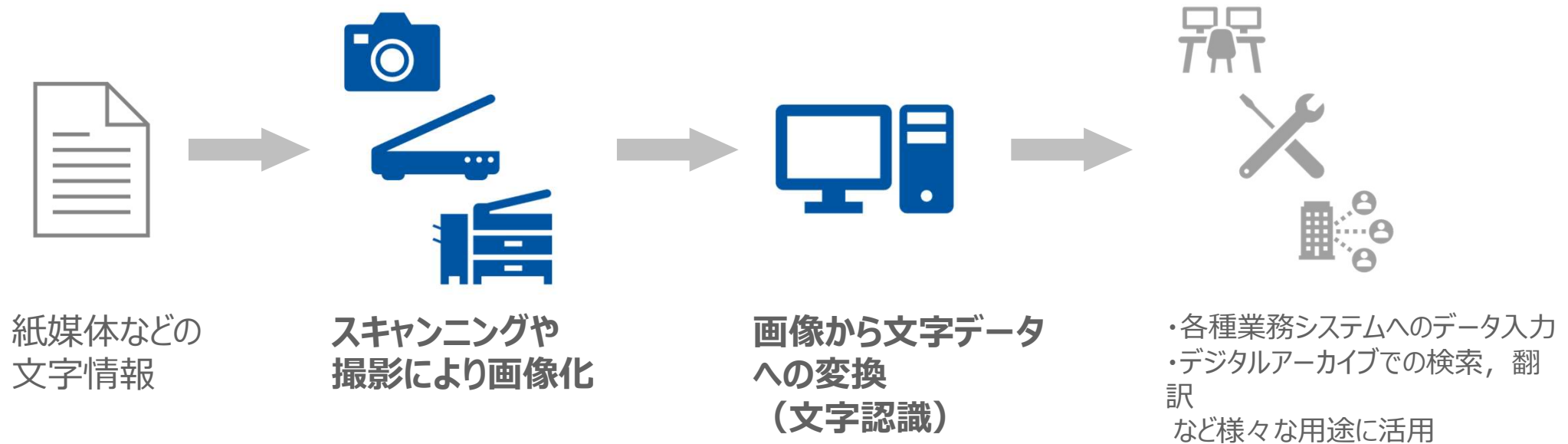
(敬称略・順不同)

1. はじめに
2. OCR市場動向調査（2025年実績／2028年見込み）
3. OCR利用者動向調査
4. おわりに

## 1. はじめに

### OCRとは

OCR（Optical Character Reader/Recognition）：光学文字認識  
スキャナやカメラなどの光学的なデバイスを用いて、紙に印刷された文字や手書きの文字をデジタル画像として取り込み、これらの画像から文字を識別し、テキストデータに変換する、主に業務向けの製品。



## 1. はじめに

### 製品分類

| 1960～ | 1980～ | 2000～                                                                   | 2020～                                                                                                                                                                          |
|-------|-------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |       |                                                                         | <div>専用スキャナ＋ソフトウェア提供</div> <div>基幹系業務を中心に高速読み取りのニーズに対応</div> <div>デバイスタイプ</div> <div></div> |
|       |       | <div>ソフトウェア提供</div> <div>各種業務での読み取りニーズに柔軟に対応</div> <div>ソフトウェアタイプ</div> | ソフトウェア・<br>サービスタイプ                                                                                                                                                             |
|       |       | <div>サービス提供</div> <div>SaaS形態により利用しやすい</div> <div>サービスタイプ</div>         |                                                                                                                                                                                |
|       |       | <div>ソリューションサービス</div> <div>帳票設計・導入サービスなど</div> <div>ソリューションサービス</div>  |                                                                                                                                                                                |

## 2. OCR市場動向調査

### OCRの状況

#### AI技術活用による適用業務の拡大

- ・フリーエリアの手書き文字の読み取り, 非定型帳票への対応拡大 (AI-OCR)
- ・クラウドサービスの拡大
- ・大規模言語モデル(LLM)による生成 AI活用 (適用範囲のさらなる拡大)

#### DX(デジタルトランスフォーメーション) への活用

- ・手書きの申請書や企業間で取引される請求書など, 各種業務の帳票のデジタル化
- ・RPAとの連携/業務効率化・自動化
- ・eKYC/本人認証の効率化
- ・非定型業務でのデータ活用

## 2. OCR市場動向調査

### 2025年の市場規模および2028年までの見通しを調査

#### ■ 調査対象

- ・国内向けOCR製品

#### ■ 調査方法

- ・実績データは調査対象8社へのアンケートにより集計
- ・外部業者に委託し、数列的分析による見通しを作成
- ・見通しに対して、委員会にてコメントを作成

#### ■ 製品区分

| 製品区分           | 調査対象   | 補足                                                               |
|----------------|--------|------------------------------------------------------------------|
| デバイスタイプ        | 台数, 金額 | OCR専用スキャナと文字認識部を同時提供する製品                                         |
| ソフトウェア・サービスタイプ | 金額     | OCRソフトウェアのみを提供（パッケージ／クラウドサービス）<br>※参考：ITR社委託によるJEITA会員外企業の調査も実施  |
| ソリューションサービス    | 金額     | OCR製品に関する有償サービス<br>OCRシステムの開発，帳票設計などのコンサルティング，セットアップ，教育，保守サービスなど |

## 2. OCR市場動向調査

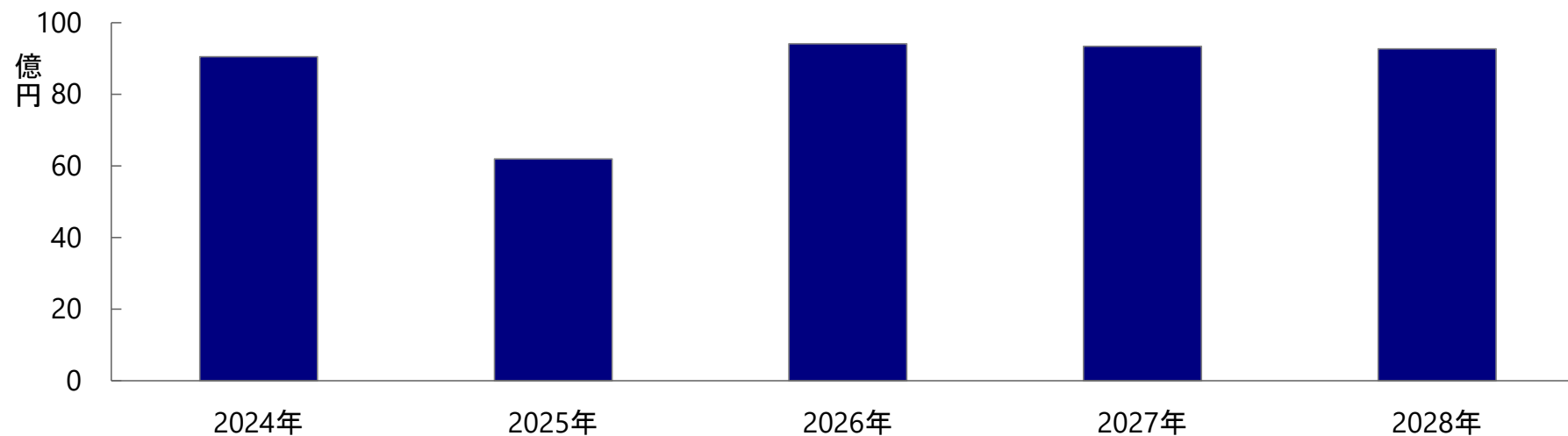
### OCR市場全体

**2025年実績 約62億円**

対前年比 32%減

**2028年見通し 約93億円**

2026年以降、90億円前後で推移する見通し





## 2. OCR市場動向調査

### デバイスタイプ動向

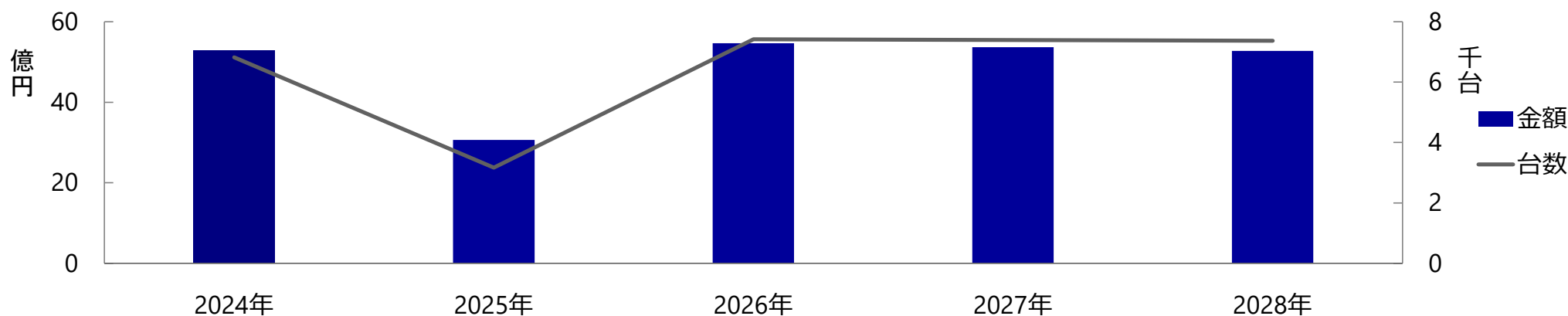
**2025年実績 約3千台 31億円**

対前年比 台数 54%減 金額 42%減

2023年から2024年にかけてデスクスタンドスキャナータイプの製品が大量出荷された。2025年は需要の谷間にあると考える。



**2028年見通し 約7千台 53億円**



## 2. OCR市場動向調査

### ソフトウェア・サービスタイプ動向

**2025年実績 約8億円**

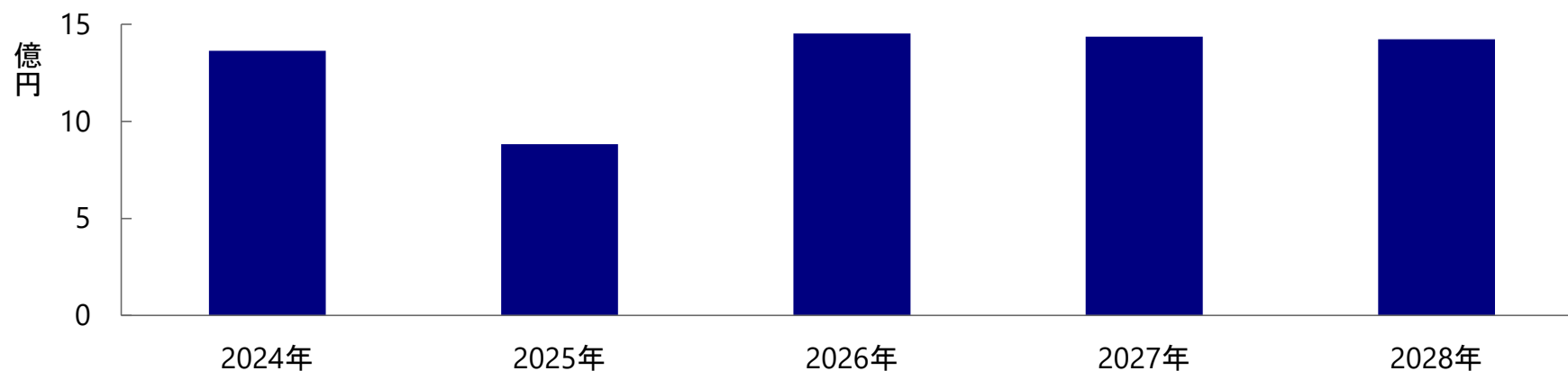
対前年比 金額 35%減  
サービス提供への移行が主要因と考えている。

**2028年見通し 約14億円**

**参考 JEITA会員以外を含む  
国内企業集計結果 約142億円**

| 2024年 | 2025年 |
|-------|-------|
| 129億円 | 142億円 |

※ITR社委託による調査



## 2. OCR市場動向調査

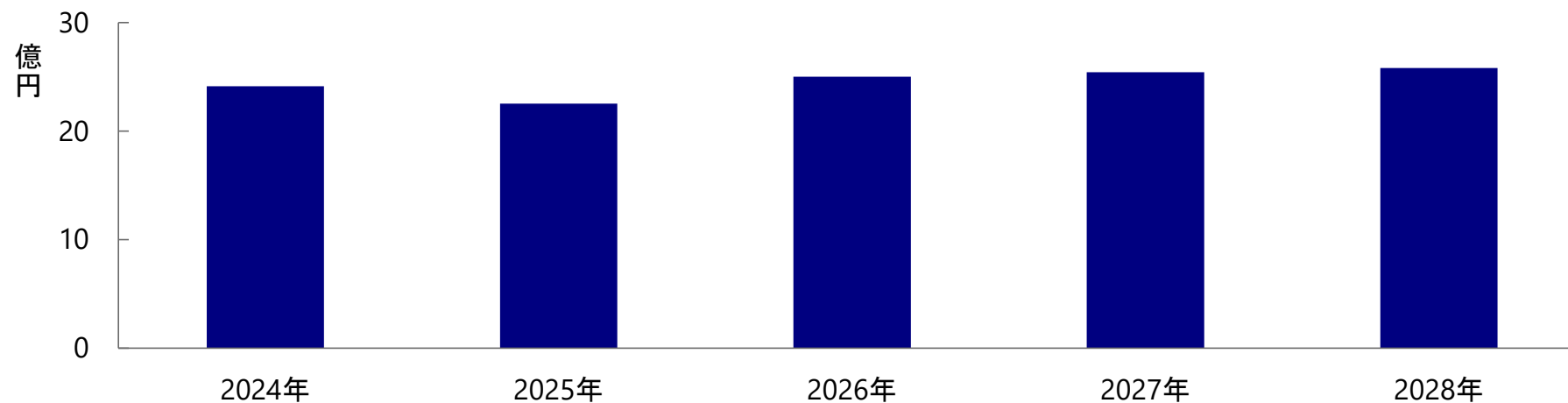
### ソリューションサービス動向

**2025年実績 約23億円**

対前年比 金額 7%減

帳票設計や設定など、比較的安定した需要が見込まれる

**2028年見通し 約26億円**



### 3. OCR利用者動向調査

OCR製品を利用するユーザ（個人を除く）に対して、2～3年毎に実施  
各製品/サービスの利用状況と今後の利活用に対する考え方や方向性を調査

#### ■ 調査対象

- ・OCR/AI-OCR製品の利用者（ビジネスユースに限定）
- ・製品の選定・決裁および運用管理の責任者クラス

} 310サンプル

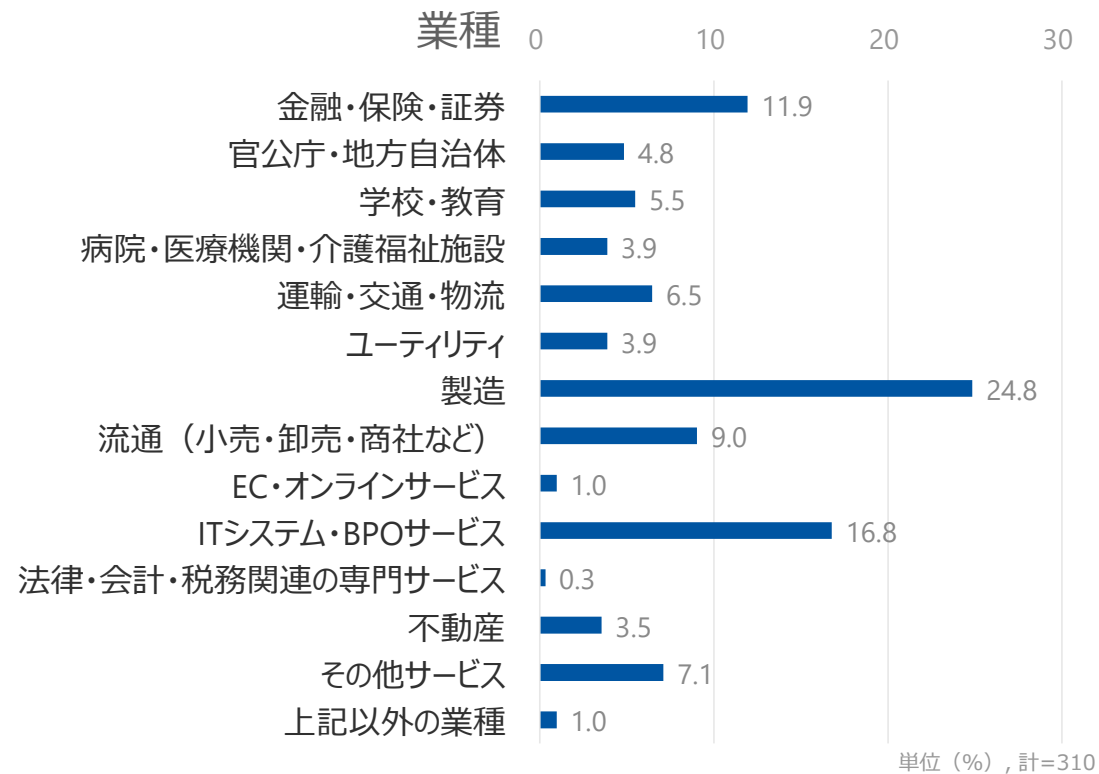
#### ■ 調査方法

- ・Web上でのアンケート調査
- ・実施期間： 2025年12月8日～12月11日

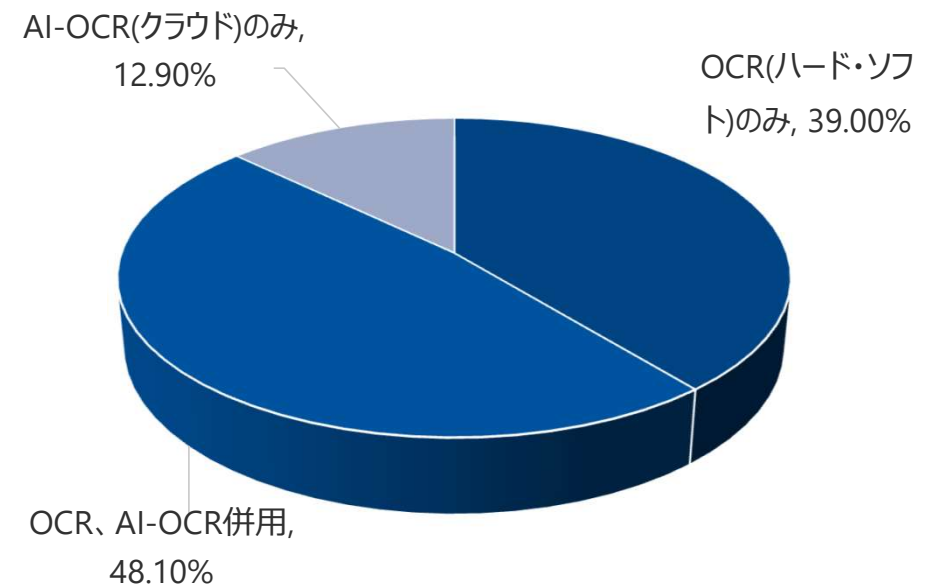
### 3. OCR利用者動向調査

#### ■ OCR製品の利用方式／形態

製品利用者全体に占めるOCR(ハード・ソフトのみ)の利用率は39%、OCR・AI-OCR製品併用の利用率が48.1%、AIOCRのみの利用率が12.9%であった。**AI-OCRが広く使われていることが確認できる。**



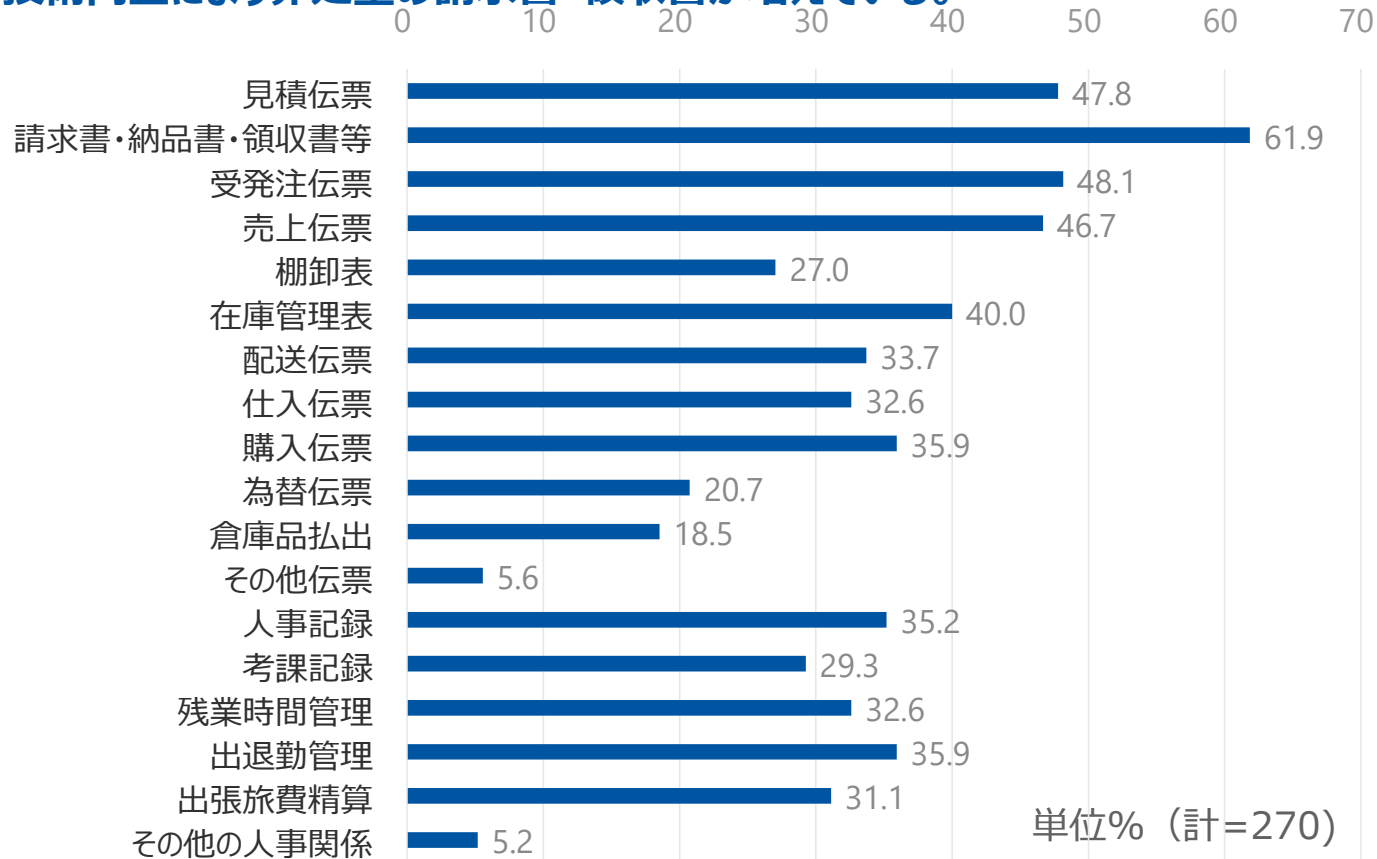
OCR／AI-OCRの併用利用状況



### 3. OCR利用者動向調査

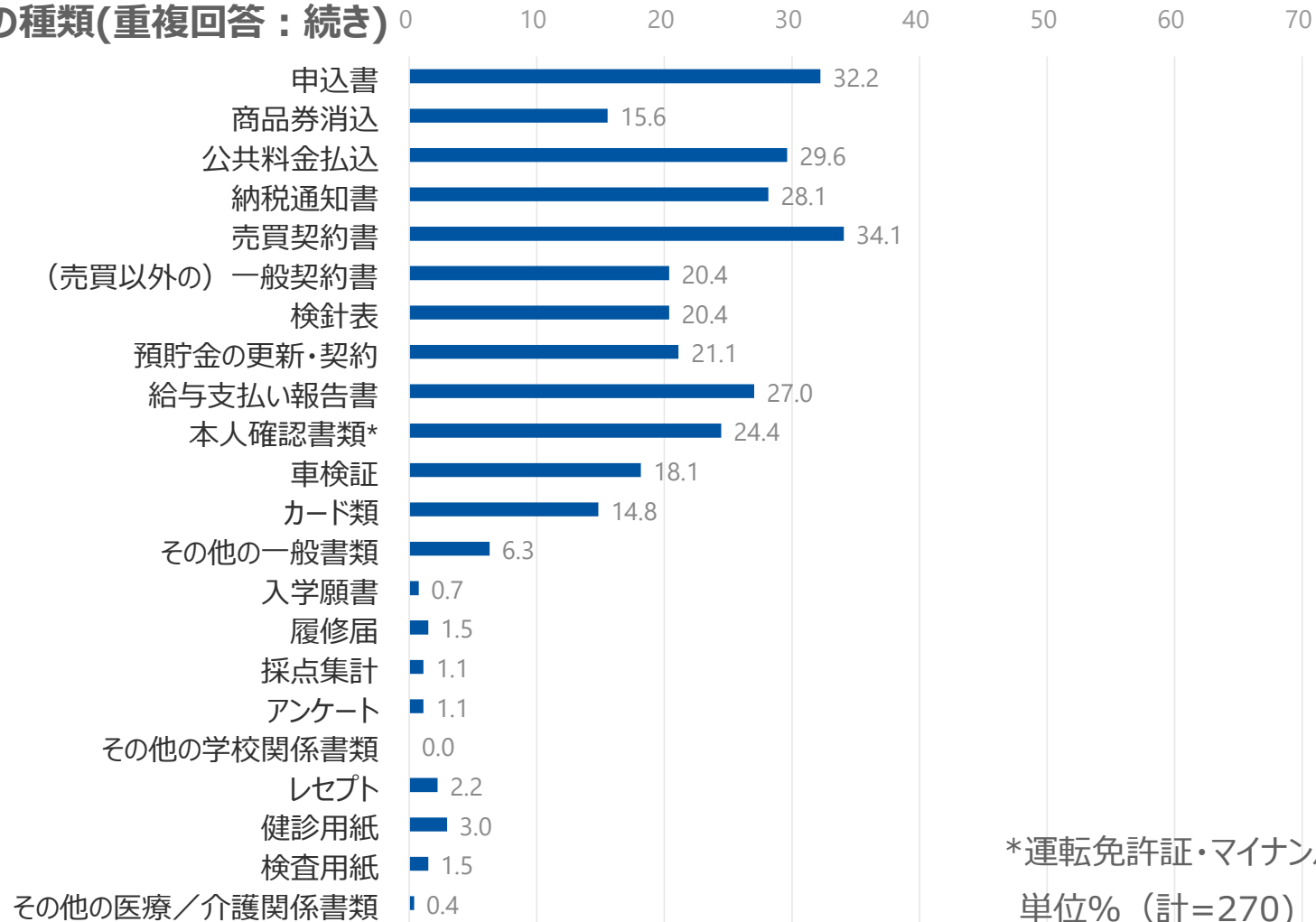
#### ■ 処理する帳票の種類(複数回答)

OCRで処理している帳票に関する設問。見積伝票、請求書・納品書・領収証、受発注伝票が多い。過去には受発注伝票が首位であったが、**技術向上により非定型の請求書・領収書が増えている。**



### 3. OCR利用者動向調査

#### ■ 処理する帳票の種類(重複回答：続き)

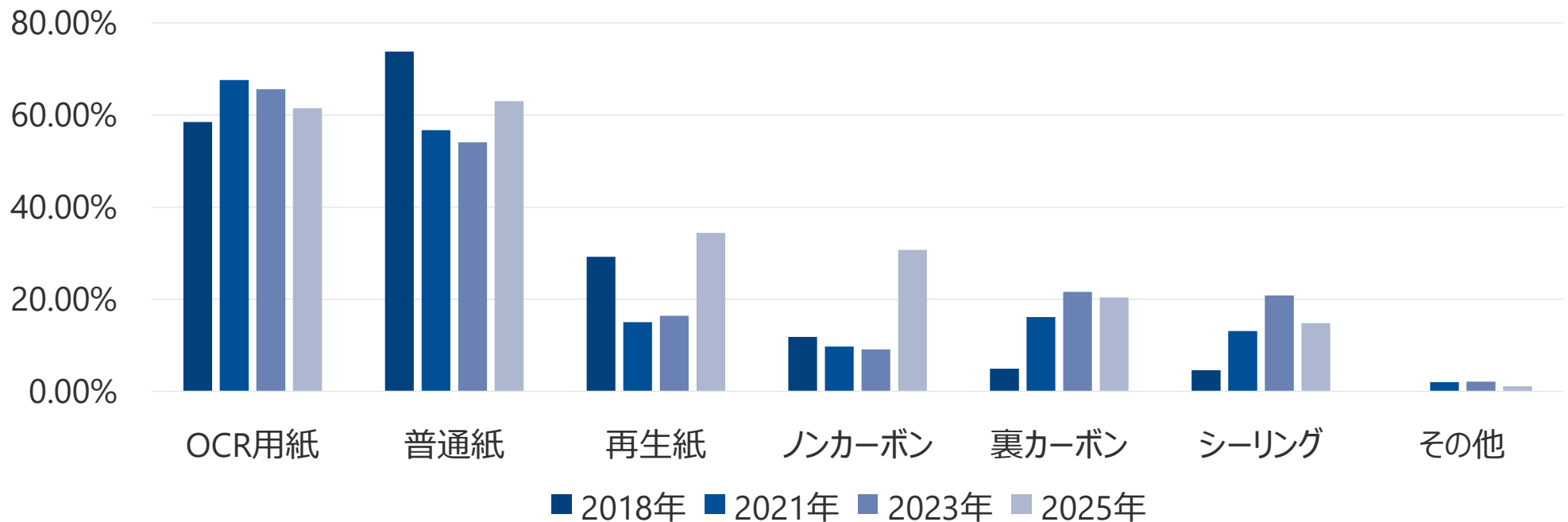


\*運転免許証・マイナンバー・パスポートなど  
単位% (計=270)

### 3. OCR利用者動向調査

#### ■ 読み込んでいる用紙の種類（複数回答）

過去にはOCR用紙(マークシート同様の黄色い紙)が数多く使われていたが、普通紙の利用が広がっている。伝票に使われる**ノンカーボン・裏カーボン・シーリングも増加傾向**で、これらの帳票は一般のイメージスキャナーでは搬送できない場合が多く、OCR専用スキャナーの堅調な需要の一因になっている。

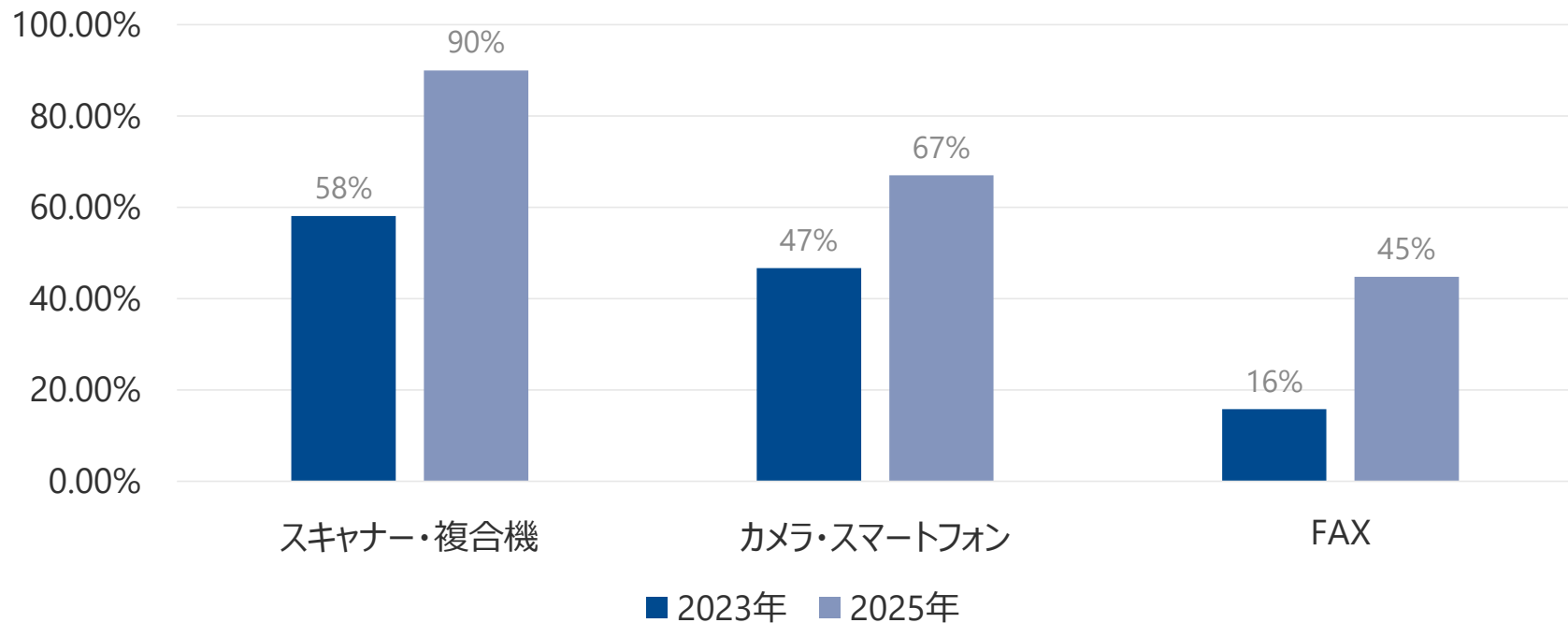




### 3. OCR利用者動向調査

#### ■ 読み取りで利用する「入力ツール」(複数回答)

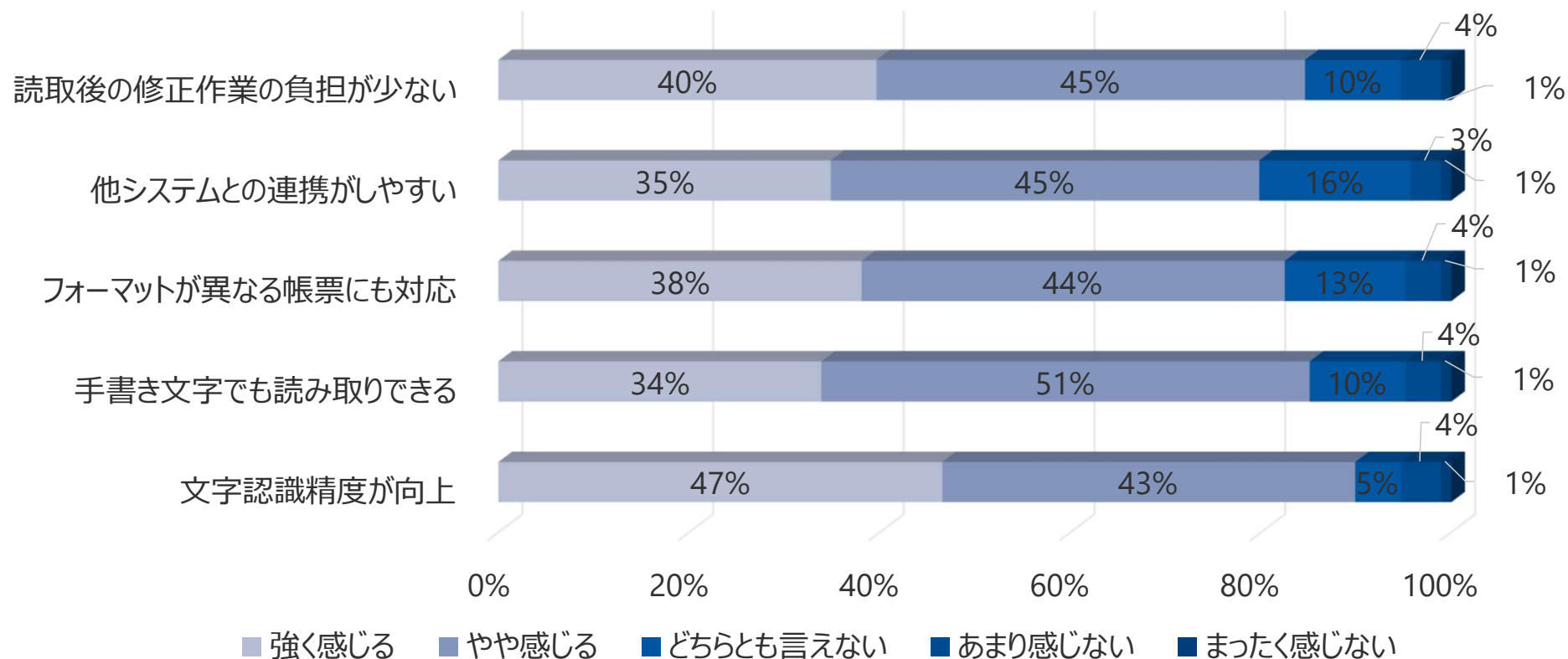
OCRで利用する入力ツールは、「イメージスキャナ・複合機」が最多となり9割に達した。また、スマートフォンやデジタルカメラ、専用機器（オーバーヘッドスキャナー等）のカメラからの読み取りも67.0%と7割近くとなった。世界的には消滅しつつあるFAXも、OCRでは根強い需要がある。



### 3. OCR利用者動向調査

#### ■ AI-OCRの活用効果（メリットは何か）

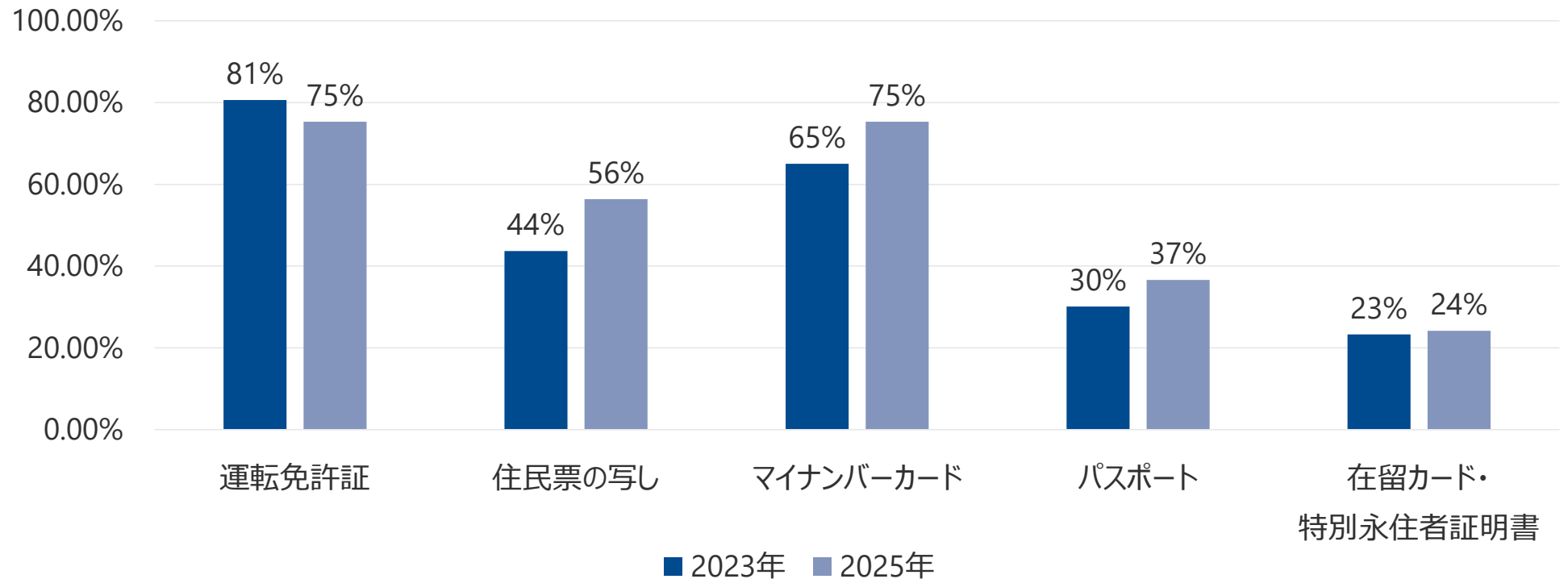
AI-OCRの効果（メリット）について見ると、最も「強く感じる」が多かったのは、文字・数値の読取・認識率の向上で、これに次いで、読取後の補正作業の負担が減少したと「強く感じる」ユーザが39.7%となった。



### 3. OCR利用者動向調査

#### ■ 本人確認で読み込んでいる情報(複数回答)

本人確認書類OCRにおいて利用している本人確認書類を問う設問である。2023年以前の調査では健康保険証も利用されていたが、健康保険証の廃止により設問から除外している。マイナンバーカードの利用が増えていることが見て取れる。



## 4. おわりに

### ■ 2026年度 活動予定

市場動向調査

製品動向調査

勉強会開催

**OCR調査市場動向調査、OCR製品動向調査の詳細な情報については、  
“OCRに関する調査報告書”として纏めましたので、  
ご購入を検討頂ければ幸いです。**